



## 東日本大震災より一年を迎える来月 3 月にアクロス福岡にてシンポジウムを開催 「東日本大震災の現場を知る—震災後一年、そしてこれから」

### 概要

昨年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖大地震は、とりわけ岩手・宮城・福島を中心に甚大な被害をもたらしました。九州大学大学院比較社会文化研究院では、今回の震災が日本に突き付けた課題を重く受け止め、多様な人材が揃う研究院の特性を活かした共同研究プロジェクト「震災と日本」を昨年 9 月よりスタートさせました。そして、震災発生から一年を迎えるこの 3 月、東日本大震災の現場に詳しい 4 名の講師を招いて、シンポジウム「東日本大震災の現場を知る—震災後一年、そしてこれから」を開催することといたしました。被災地より遠い福岡の中心部、アクロス福岡を会場として、あらためて今回の震災を振り返りながら、現在の課題を共有し、今後の被災地支援のあり方や防災・減災の教訓を学ぶ機会にしたいと考えております。

### 背景

今般の東日本大震災は、巨大津波によって多くの人命を奪い去っただけでなく、原発事故をも引き起こし、日本社会に二重三重の重い課題を突きつけております。破壊された地域の復旧・復興と、原発事故の放射能汚染対策と補償問題、今後も予想される地震災害に対する防災・減災対策のほか、エネルギー政策や、行政や産業、学界の奇妙な連合によって意志決定が行われる日本社会のシステムそのものが問われています。問題が多様であるだけに、さまざまな分野の専門家がそれぞれの領域について発言をしていますが、そのためにかえって課題の焦点を絞ることが難しくなっています。震災一年を迎えるこの時期、あらためて東日本大震災を振り返り、問題の原点を確かめるとともに、現在の課題を整理して、今後の被災地支援や防災・減災の教訓とすることが求められています。

### 内容

今回のシンポジウムでは、被災現場に詳しい講師を招き、以下のような講演を行うと共に、パネル・ディスカッションでは、フロアとの討論にも時間を設けたいと考えております。また、当日は受付にて、「遠隔地からでもできる被災地支援」の文書（無料）をお渡しします。

1. テーマ 「東日本大震災の現場を知る—震災後一年、そしてこれから」
2. 日時 2012年 3月8日（木）  
受付：16時～ 開演：16時30分～（入場無料。20時30分終了予定）
3. 会場 アクロス福岡 7階 大会議室
4. プログラム  
第一部 講演  
(1)都司嘉宣 東京大学地震研究所  
「プレート境界地震を連動型にしたら、東日本震災のような千年に一度の超巨大津波が再現できるという考えは間違いだ」  
(2)鹿糠敏和 岩手日報社、大船渡支局長  
「津波被災の現場から」  
(3)吉岡 斉 九州大学大学院教授、政府事故調査検証委員会委員  
「福島原発事故はどうして防げなかったのか」  
(4)秋元 理匡 弁護士、日弁連原子力 P T 事務局長  
「原発被害者救済活動の現状と課題」  
第二部 パネル・ディスカッション（フロアとの討論を含む）

## 5. 講師紹介

- ・秋元理匡（あきもと・まさただ）氏  
弁護士。日本弁護士連合会東日本大震災・原子力発電所事故等対策本部原子力PT事務局長。損害賠償について各地で研修活動を行うほか、被害者の損害賠償請求を支援する複数の弁護団に参加、頻繁に福島の実地におもむき、被害者の声を丁寧に聞いている。
- ・鹿糠敏和（かぬか・としかず）氏  
岩手日報社大船渡支局長。第49次日本南極地域観測隊同行記者（日本新聞協会代表取材）。今回の震災では支局兼自宅が全壊。各種のフォーラムや研修会などで今回の震災についての講演活動を行う。『平成三陸大津波 記者の証言』（岩手日報社）。
- ・都司嘉宣（つじ・よしのぶ）氏  
東京大学地震研究所地震火山災害部門准教授。津波、歴史地震学、津波検知の第一人者。政府の地震調査委員、中央防災会議専門調査会委員を歴任。内外の地震・津波の実地調査に携わり、東日本大震災では千葉、茨城、三陸海岸の実地被災調査にあたる。NHK や民報などで解説も行っている。
- ・吉岡斉（よしおか・ひとし）氏  
九州大学大学院比較社会文化研究院教授。九州大学副学長。専門は科学社会学、科学史。内閣府原子力委員会専門委員、経済産業省総合資源エネルギー調査会臨時委員などを歴任。現在、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会メンバーをつとめる。

### ■効果

1. 東日本大震災における津波について先端的な研究成果を学ぶことができます。
2. 津波の被災者より実際の被害の話をお聞き、被災地の現状の課題を理解することができます。
3. 原発事故発生の経緯と理由、および今後のエネルギー政策の課題を知ることができます。
4. 原発事故被災者の現状と賠償問題について理解することができます。
5. 東日本大震災被災地の現状と今後の課題を認識し、具体的な支援の方法を知ることができます。

### ■今後の展開

比較社会文化研究院の研究プロジェクト「震災と日本」は、今後も震災に関する情報を収集すると共に、継続的に研究活動を実施し、ウェブページをとおして情報発信をして参ります。

詳細は、<http://www.scs.kyushu-u.ac.jp/shinsai/index.htm> を御覧ください。

#### 【お問い合わせ】

大学院比較社会文化研究院 楠木（かぶらぎ）  
電話：092-802-5623  
FAX：092-802-5623  
Mail：kaburagi@scs.kyushu-u.ac.jp